

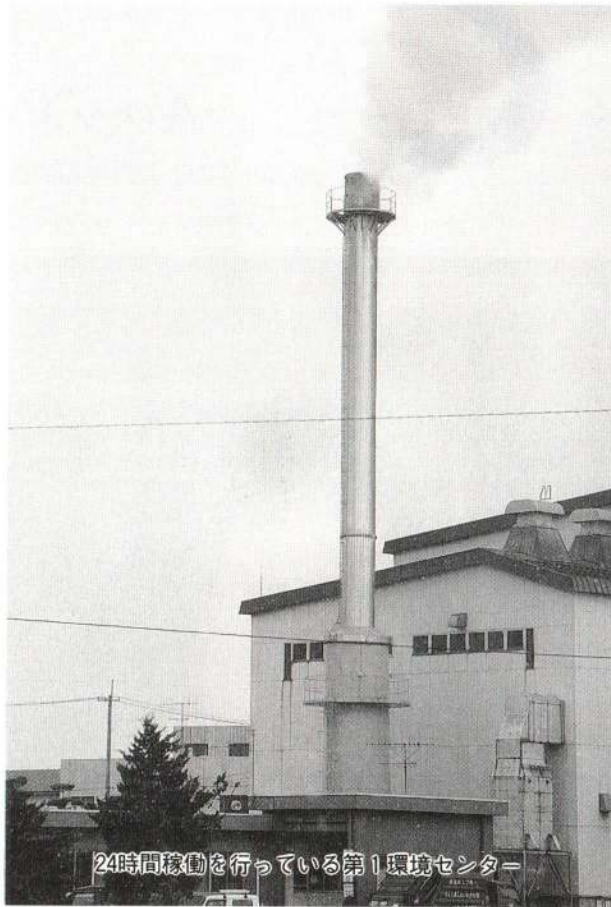
行政報告

国の基準を大きく下回る0・086ピコグラム

排出抑制対策の効果

ダイオキシン類濃度の調査結果

市議会三月定例会が三月三日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。



24時間稼働を行っている第1環境センター

県が、今年度県内四か所で実施した大気中のダイオキシン類濃度調査の結果が二月二十六日に発表されました。

点で国の大気環境指針値0・八ピコグラムを下回っており、本市の測定結果は、平均で0・〇八六ピコグラムでした。この数値は、秋田市の〇・一六ピコグラム、本荘

市と横手市の〇・一三ピコグラムを大きく下回っており、これまで実施してきた排出抑制対策の効果が見られているものと思っております。

さらに、平成十年九月二十一日から、国が実施している「ダイオキシン類緊急全国一斉調査」の結果についても、今後情報が入り次第お知らせしたいと思います。

大館矢立ハイツ利用客減少 早急に復旧します

矢立ハイツの湯湯ポンプは、平成七年六月の大館矢立ハイツのオープンに合わせて、県が温泉井戸を復旧し設置したものを本市が借り受け、使用してきたものです。

昨年十二月二十日にこのポンプが故障したことから、温泉の湯湯が停止しました。二月九日までは貯湯槽に貯めていたものを給湯していましたが、それも底をついたことから沸かし湯で対応することになりました。

ポンプの故障以降、県と協議を続けているところですが、ハイツの運営や利用者へご不便・ご迷惑をおかけしている状況などから、一日も早い解決を図るために、早急にポンプを復旧させなければなりません。こうした事態を踏まえ、



ポンプの改修を進めています (大館矢立ハイツ)

市独自でポンプの改修をするための工事請負費を、本年度補正予算案として本定例会に提出させていただきますました。皆様のご理解をよろしく願います。

緊急生産調整推進対策二年目 今年も32・5%の転作率

米の需給及び価格の安定を図ることを目的として実施されている「緊急生産調整推進対策」の一年目となった昨年は、米をめぐる情勢が厳しい中で、かつてない大幅な転作割り当てとなり、その目標達成が心配されました。しかし、生産者の皆様のご理解とご協力を得ながら目標を達成することができました。

平成十一年度は緊急対策二年目となりますが、その生産調整目標